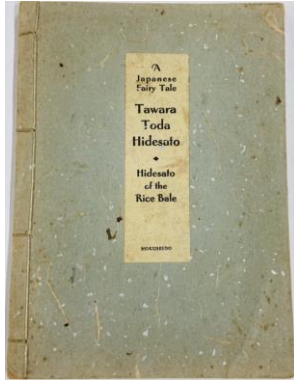
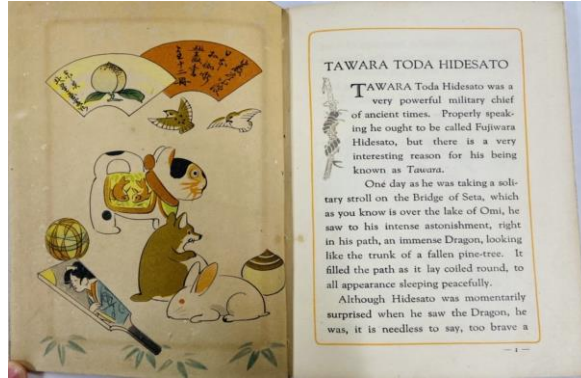


# 北星堂による『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』出版とその意図について

岡本梓(関西大学)



(左)『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales Tawara Toda Hidesato』表紙



(右)『Iwaya Sazanami's Japanese fairy Tales Tawara Toda Hidesato』前見返し・本文1ページ

## 1. 概要

本発表は、1938 年に北星堂(<sup>ほくせいどう</sup>東京市神田区錦町3-12)から出版された英訳日本昔話『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』について、出版の目的を明らかにするものである。

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』が出版された1930年代において、北星堂は欧米諸国に向けて日本を紹介する書籍を販売した出版社であった。北星堂による日本を紹介する書籍の出版は、国際連盟を脱退した後の日本において、欧米からの批判を和らげるために、日本文化を発信する事業が国策として推進されたことを受けてのものである。北星堂が刊行する英字新聞『The Pole Star Monthly』Vol. 14 No. 6によると、北星堂は「日本の国民性を欧米諸国に認識させるに役立つ」書籍として、明治時代に出版された日本昔話を見出し、装訂を洋装本から和装本に改めた上で出版した。北星堂が『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』を和装本として出版した背景には、西洋から印刷技術がもたらされる以前から、日本に優れた印刷・製本技術が存在したことを示すことで、文化的国家としての日本を演出する意図があった可能性を指摘できる。

## 2. 北星堂による出版活動

### 2.1 概要

まずは北星堂について概要を確認する。北星堂は、1915年に中土義敬(<sup>なかつちよしとが</sup>)によって創業された出版社である。創業開始当初は、主として英語参考書を出版した。1920年頃からは、英語参考書に加えて、ラフカディオ・ハーン関連書籍や、日本文学作品の英訳の出版を開始した。以降、北星堂の出版物はアメリカ・イギリスの書店においても取り扱われるようになる。とりわけ、北星堂のハーン関連書籍は、アメリカで出版されたハーン全集から漏れた文章を収録していることや、廉価であることから、日本国外からも高く評価されたという<sup>1</sup>。

## 2.2 1930 年代の北星堂による日本を紹介する書籍出版

つづいて『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』が出版された 1930 年代における北星堂の位置づけを確認する。1930 年代の北星堂は、海外に向けて日本を紹介する書籍を出版している。北星堂の出版目録において、「日本及極東関係書其他」と称される書籍群である。1939 年度の出版目録においては「日本及極東関係書其他」として 47 点の書籍が紹介されている。「日本及極東関係書其他」には、日本における生活の様子を紹介するもの(G.W. Show『Living in Japan』等)や、日本に伝わる習慣や文化を紹介するもの(G. Caiger『Dolls on the Display』、<sup>ふくき た やすの すけ</sup>福喜多靖之助『Cha-no-yu』等)、日本人の伝記(<sup>きよおかえいいち</sup>清岡映一訳『<sup>ふくおう じ でん</sup>福翁自傳』、<sup>い じ ち すみまさ おおくまこうでん</sup>伊地知純正『<sup>おおくまこうでん</sup>大隈侯傳』等)、日本史(A. B. Scherer『The Romance of Japan』等)、日本文学の英訳書(G. W. Shaw 訳『Tales Grotesque and Curious (羅生門そのほか)』等)、東アジアの情勢を論じるもの(A. B. Scherer『Manchukuo』等)が含まれている。

1938 年度の北星堂出版目録には、北星堂の出版物がもつ特色が、次のように説明されている。

一、活字及印刷の美麗 活字は總て歐米最新のものを紐育より多大の費用を投じて購入した他に類なきものであります、従つて活字の不揃や不鮮明、凹凸等の事は絶対にありません。(中略)様々の形の文字、例へば漢字の明朝形と清朝形を混り混りに列べたやうな不體裁なものは決して無いのであります。其上インキは最も優秀なる品を用ゐて居りますから印刷の鮮明優美さに於ては斷然他の追隨を許さぬ所であります。

一、用紙の優良 弊堂は多年の経験により北星堂別漉の最上級品を使用して居ります。

一、製本の堅牢 クロースは弊堂別製の優良品を用ゐ、形、綴方等は弊堂獨得の方法により、外見ばかりでなく、目に見えぬ所のボール、糸、綴目の布に至るまで最善の注意を拂ひ費用と勞力を惜しまず入念に製本して居ります。

一、定價の低廉 眞に實質其ものに多大の費用を拂ひ、最高級の品のみ使用して居りますが、一方無意味なる宣傳費等は之を省き、出來得る限り讀者の負擔を輕からしめんがために定價を最も低廉にして居ることは既に北星堂本を一度手にされた方は充分お認めになつて居る所であります。

弊堂は兼てより我國の文化を海外に紹介せんとし、夙より小泉八雲の各書を始め現代日本の代表的小説或は劇、最近に於いては我國の風俗、習慣或は政治外交に關する各書をも出版しましたところ世界的に非常な高評を博し、今や三十六ヶ國の諸外國の市場に我北星堂本の進出を見るに至り我國文化のために聊か貢獻を盡しつゝある事は欣快とする所であります。

## 2.3 1930 年代の国際情勢と北星堂

北星堂による日本を紹介する書籍の出版は、当時の日本の対外政策を反映したものである。1939 年度の北星堂出版目録に紹介される「日本及極東関係書其他」47 点のうち、43 点は 1933 年以降に出版された書籍である。すなわち、9 割は日本が国際連盟を脱退した後に出版されているのである。

1934 年には<sup>こくさいぶん か しんこうかい</sup>国際文化振興会が設立された。日本の文化を欧米に紹介することを目的として設立された外務省系の外郭団体である。国際文化振興会の事業綱要には 10 種の事業が列挙されているが、1 つ目には「著述、編纂、翻譯及び出版」が挙げられている。海外に日本文化を紹介するにあたって、出版物による発信が有力視されていたのである<sup>2</sup>。

## 3. 『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』について

### 3.1 概要

北星堂は、1938年に『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』を出版した。『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』は、全12編(『Momotaro』・『The Jewel Spring』・『The Crab's Revenge』・『The Mirror of Matsuyama』・『The Old Man Who Made Trees to Blossom』・『The Goblin Mountain』・『The Tongue-cut Sparrow』・『Tawara Toda Hidesato』・『Do Nothing Taro』・『The Tea-kettle of Good Luck』・『The Story of Kachi-kachi Yama』・『The Old Man with the Wen』)からなる英訳日本昔話である。

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』には原作と底本が存在する。原作は1984年から1986年にかけて出版された巖谷小波編『日本昔噺』である。『日本昔噺』は、児童文学作家・巖谷小波が著した全24編の日本昔話叢書である。当時の有力出版社であった博文館から出版されたこともあり、出版開始以降、日本全国に広く普及し、「日本昔話の定本」と称されるに至った<sup>3</sup>。底本は巖谷小波編『Iwaya's Fairy Tales of Old Japan(和英対訳日本昔噺)』である。『日本昔噺』の前半12編を改訂・英訳し、和英対訳化したテキストである。1903年から1904年にかけて英学新報社から初版が出版された。さらに、初版の出版から10年を経た1914年には、版權を譲り受けた富田文陽堂から再版が出版されている。

北星堂は、1938年に富田文陽堂から『Iwaya's Fairy Tales of Old Japan』の著作権を購入。英文部のみを抜き出し、改訂を加えた上で、装訂を改めて『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』として出版した。

### 3.2 『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』書誌

つづいて『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』の書誌情報を確認する。本発表では1例として、発表者が所有する『Tawara Toda Hidesato』を取り上げ、書誌情報を示す。

装訂は袋綴装である。表紙は水浅葱色に染色した雲龍紙であり、全体に銀砂子が吹き付けられている。表紙の中央には短冊型の題簽が貼付されている。題簽は無染色の雲龍紙であり、銀砂子が吹き付けられている。題簽には横書きのアルファベットで、叢書名(A Japanese Fairy Tale)、書名(Tawara Toda Hidesato)、副題(Hidesato of the Rice Bale)、出版社名(HOKUSEIDO)が印字されている。なお、『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』全12編の表紙はいずれも雲龍紙が用いられているが、各編で染色が異なっている。また題簽に染色が施されているものもある。すなわち、『Momotaro』は砥粉色の雲龍紙に赤朽葉色の題簽、『The Jewel Spring』は縹色の雲龍紙に無染色の題簽、『The Crab's Revenge』は丹色の雲龍紙に無染色の題簽、『The Matsuyama Mirror』は薄紅色の雲龍紙に無染色の題簽、『The Old Man Who Made Trees to Blossom』は薄墨色の雲龍紙に無染色の題簽、『The Goblin Mountain』は瓶覗色の雲龍紙に無染色の題簽、『The Tongue-cut Sparrow』は松葉色の雲龍紙に無染色の題簽、『Do-Nothing Taro』は枯色の雲龍紙に縹色の題簽、『The Tea-kettle of Good Luck』は茶鼠色の表紙に無染色の題簽、『The Old Man with the Wen』は藍鼠の表紙に丹色の題簽である。

法量は縦16.0(cm)×横11.7(cm)。丁数は14丁。標題紙を欠いており、本文13丁(うち1丁は折り

込み挿絵(18-19 頁間))と、目次 1 丁からなる。

前見返しおよび後見返しは多色刷である。見返しに用いられる紙は、上部から下部にかけて薄紅から薄緑へのグラデーションがかかっており、上部には白抜きで桜が、下部には笹の葉が印刷されている。前見返しには、2 枚の扇面・2 羽の雀・犬張子・狸・毬・法珠・兎・羽子板が描かれており、朱色・黄色・黄緑色・茶色・灰色・黄土色・深緑・水色の 8 色を以て彩色されている。上部に描かれた 2 枚の扇面のうち、一方には「巖谷小波日本お伽叢書全 12 冊」と記されている。もう一方の扇面には桃が描かれており、桃の絵の左横には「東京北星堂発行」の文字が記されている。

後見返しには 2 匹の蜂・瓢箪・矢・漆塗りの盃・茶筌・茶碗が描かれており、黄色・茶色・灰色・朱色・深緑の 5 色を以て彩色されている。上部には方形の枠が 2 つ、重なる位置に描かれている。一方には「版權所有不許複製」と印字されており、もう一方には奥付が貼付されている。奥付によると、発行・印刷日はそれぞれ昭和十三年八月八日、昭和十三年八月十二日である。なお、前見返し・後見返し・奥付は 12 編すべて共通のものである。

本文は横書きの英文である。本文中の 18-19 頁間には、多色刷の挿絵が 1 葉折り込まれている。<sup>1</sup> 俵<sup>たわらの</sup>藤太<sup>とうだ</sup>が龍神から土産を賜り、龍神の臣下とともに、龍宮を後にする場面を描いた挿絵であり、黄色・黄緑・水色・紅色・橙色・灰色の 6 色を以て彩色されている。多色刷りの挿絵は、全ての編に 1 葉、必ず折り込まれている。

目次には叢書名(Hokuseudo's Japanese Fairy Tales)、原作者(Iwaya Sazanami)、定価(Each vol. 50 cents in U.S.A. 2s. in Europe)、全 12 編のタイトル、出版社名と所在地が記されている。目次は 12 編すべて共通のものである。定価が海外通貨で示されていることから、欧米での販売を想定した書籍であることが分かる。ほか、『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』の附属品として、帯、ならびに 12 編をまとめて収納するための函が存在することを確認している<sup>4</sup>。

#### 4. まとめ

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』は、明治期に制作された日本昔話を原作とし、日本人の国民性を欧米諸国に認識させるために役立つテキストとして、欧米諸国を対象として出版された。北星堂は、出版にあたって近代以前の和装本を模した装訂を採用した。しかし英文を印刷するにあたっては、ニューヨークから入手した最新の活字(アルファベット)を用いた。つまり、日本の伝統的な製本技術と、海外からもたらされた最新の印刷技術とを、兼ね備えた書籍として出版されたと言える。北星堂にとって『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』を出版する事業は、日本には過去から現在に至るまで優れた出版技術が存在することを欧米に示し、文化的国家としての日本を演出しようとする試みであったと考えられる。

<sup>1</sup> 出版タイムズ社・出版通信社・出版研究所 共編『現代出版業大鑑』、現代出版業大鑑刊行會、1935 年

<sup>2</sup> 国際文化振興会 編『財団法人国際文化振興会事業報告書、昭和 10 年度』、国際文化振興会、1937 年

<sup>3</sup> 木村小舟『少年文學史 明治篇上巻』童話春秋社、1942 年

<sup>4</sup> 帯の表紙側には「Favorite Stories Retold for Children of Other Lands」、前見返し側に「Price 50Cents in America 2s in Europe」「日本内地 定價各八拾錢」、後見返し側に「Made in Japan」と印字されている。

函は紙製であり、表に「FAVIRITE ATORIES RETOLD FOR CHILDREN OF OTHER LANDS」「JAPANESE FAIRY TALES In Twelve Vols」「THE HOKUSEIDO PRESS: Tokyo」「Made in Japan」と印字された紙が貼付されている。函の内側には各編に収録された目次の内容に、「Illustrated in colours with Brush Paintings by Famous Japanese artist.」「Printed on Hand-made Paper specially Manufactured for the Volumes.」という 2 文を加えた紙が貼付されている。